

平成22年 5月20日現在

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2007～2010

課題番号：19520180

研究課題名（和文） 南西諸島における文化叙事伝説の調査研究

研究課題名（英文） A Study of Cultural Legends in the Ryukyu Islands

研究代表者

原田 信之（HARADA NOBUYUKI）

研究者番号：60290508

研究代表者の専門分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・日本文学

キーワード：国文学、文学一般、民俗学、文化人類学

1. 研究計画の概要

本研究の目標は、南西諸島各地に伝承されてきた文化叙事伝説を、南西諸島各地で直接聞き取り調査して記録するとともに総合的に比較研究し、民間伝承の世界における文化叙事伝説の特徴や意味を明らかにすることにある。そのために、平成19年度から平成22年度にかけて、大隅諸島・トカラ列島・奄美諸島・沖縄諸島・宮古諸島・八重山諸島それぞれに伝承されている文化叙事伝説をゆかりの地に行き直接聞き取り調査する。同時に、関連文献の調査も行う。

本研究では特に、大和・琉球両文化の接点である大隅諸島・トカラ列島の有人島全島（大隅諸島6島・トカラ列島7島）の網羅的な実地調査を行う。調査を行うことにより、大和・琉球両文化の接点の島々で両文化がどのように変容して伝承されているかが明らかとなる。また、各地域の文化叙事伝説は、それぞれ独自の個性を持つとともに、それぞれ魅力的な伝説が多数伝承されている。それらの伝説の意味についても、一つ一つ丁寧に考察を加えてゆく必要がある。伝説が消滅してしまう前に、貴重な伝説をできるだけ多く調査研究し、記録することを目指す。

(1)平成19年度の計画

平成19年度は、大隅諸島と八重山諸島の文化叙事伝説に関する実地調査を行う。大隅諸島では、有人島6島中3島（種子島・屋久島・口永良部島）を調査対象地とする。

(2)平成20年度の計画

平成20年度は、大隅諸島と奄美諸島の文化叙事伝説に関する実地調査を行う。大隅諸島では、有人島6島中残りの3島（竹島・硫黄島・黒島）を調査対象地とする。

(3)平成21年度の計画

平成21年度は、トカラ列島と沖縄諸島の文化叙事伝説に関する実地調査を行う。トカラ列島では、有人島7島中4島（口之島・中之島・諏訪之瀬島・平島）を調査対象地とする。

(4)平成22年度の計画

平成22年度は、トカラ列島と宮古諸島の文化叙事伝説に関する実地調査を行う。トカラ列島では、有人島7島中残りの3島（悪石島・小宝島・宝島）を調査対象地とする。

2. 研究の進捗状況

研究計画通り各地に直接赴き、文化叙事伝説に関する実地調査・文献調査を行った。年度ごとに主要な成果を列挙する。

(1)平成19年度は、鹿児島県大隅諸島の種子島・屋久島・口永良部島、沖縄県八重山諸島の石垣島で調査を行った。以下、島ごとに調査を実施した主要事項を記す。種子島では鉄砲伝来伝説、若狭姫伝説、網切吉右衛門伝説、カジョウガネ踊りなど。屋久島では泊如竹伝説、遣唐使船寄港伝説、平家伝説など。口永良部島ではオランダ交易伝説、イギリス船遭難伝説、平家伝説、西郷隆盛伝説など。石垣島ではオヤケアカハチ伝説、真乙姥・古乙姥伝説、多田屋遠那理伝説などの調査を行った。

(2)平成20年度は、鹿児島県大隅諸島の竹島・硫黄島・黒島、奄美諸島の喜界島で調査を行った。竹島では遣唐使漂着伝説、平家伝説、うつおぶね伝説、馬方踊り、竹島八朔太鼓踊りなど。硫黄島では俊寛伝説、平家伝説、遣唐使漂着伝説、うつおぶね伝説、硫黄島八朔太鼓踊りなど。黒島では平家伝説、英雄イバドン伝説、うつおぶね伝説、姨捨山伝説、黒島八朔踊りなど。喜界島では奄美沖縄民間

文芸学会喜界島大会公開シンポジウムで基調報告を行うとともに、勝連家伝説、涙石伝説、荒木王伝説、村田新八滞在伝説などの調査を実施した。

(3)平成 21 年度は、鹿児島県トカラ列島の口之島・中之島・諏訪之瀬島・平島、沖縄県の久米島で調査を行った。口之島では平家伝説、慶元伝説など。中之島では平家伝説、与助岩伝説など。諏訪之瀬島では藤井富伝移住伝説など。平島では平家伝説、七島正月由来伝説など。久米島ではノロ伝説、伊敷索城の按司伝説、具志川城の按司伝説、登那覇城の按司伝説、堂の比屋の伝説、羽衣伝説、鬼伝説などの調査を実施した。

3. 現在までの達成度

本研究課題の当初研究目的の達成度についての自己点検評価は、「〈区分〉①当初の計画以上に進展している。」である。

その理由は、「2. 研究の進捗状況」の項目に主要な成果を記した通り、当初の計画以上に調査研究が進展しているからである。本研究では特に、大和・琉球両文化の接点である大隅諸島・トカラ列島の有人島全島（大隅諸島 6 島・トカラ列島 7 島）の網羅的な実地調査を行うことを目指しているわけであるが、平成 19 年度および平成 20 年度で大隅諸島の 6 島全部（種子島・屋久島・口永良部島・竹島・硫黄島・黒島）、平成 21 年度でトカラ列島の口之島・中之島・諏訪之瀬島・平島の 4 島の調査を完了した。調査の結果、大和・琉球両文化の接点の島々で両文化がどのように変容して伝承されているかの一端が明らかになりつつある。調査により、多くの貴重な文化叙事伝説を採集することができているが、調査に行く前の段階では知り得なかった貴重な伝説が伝承されていることを新たに発見することも多く、極めて興味深い研究成果が得られている。

4. 今後の研究の推進方策

本研究課題の今後の推進方策は、計画が順調に進捗している状況から、当初の計画通り研究を推進することを目指す。本研究課題の最終年度にあたる平成 22 年度は、トカラ列島と宮古諸島の文化叙事伝説に関する実地調査を行う予定である。特にトカラ列島では、有人島 7 島中残りの 3 島（悪石島・小宝島・宝島）を調査し、トカラ列島有人島全島の網羅的な実地調査を完了させる予定である。宮古諸島では、宮古島の文化叙事伝説に関する調査の補足調査を行う予定である。トカラ列島は鹿児島港から週 2 回運航されているフェリーが唯一の交通手段のため、入島調査は極めて困難である。また、過疎化問題も極めて深刻で、主な調査対象者である高齢者の人数も減少の一途をたどっている。伝説が消滅してしまう前に、貴重な伝説をできるだけ多く調査研究し、記録することを目指す。

5. 代表的な研究成果

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 4 件）

(1)原田信之：南島の英雄伝説. 奄美沖縄民間文芸学, 査読有, 9, 37-54, 2009

(2)原田信之：鹿児島県硫黄島の遣唐使漂着伝説と灯台鬼説話. 新見公立短期大学紀要, 査読有, 30, 181-195, 2009

(3)原田信之：沖縄・多良間島の御嶽と土原豊見親伝説. 奄美沖縄民間文芸学, 査読有, 8, 51-66, 2008

(4)原田信之：沖縄・与那国島の鬼虎伝説. 新見公立短期大学紀要, 査読有, 29, 247-261, 2008

〔学会発表〕（計 4 件）

(1)原田信之：琉球国第一尚氏王統始祖伝説. 【国際学会】韓国日本近代学会第 18 回国際学術大会(日本・韓国), 2008.10.25. 立命館アジア太平洋大学(別府市)

〔図書〕（計 1 件）